

平成26年7月24日
一般廃棄物課
産業廃棄物課

本調査は、県内における平成24年度の一般廃棄物及び産業廃棄物の排出・処理実態を把握し、現行の廃棄物処理計画の進行状況を検証するとともに、新たな廃棄物処理計画策定のための基礎資料とすることを目的として実施したものである。

1 調査の実施内容

- (1) 一般廃棄物に関しては、各市町村の処理実績データ等により処理の現状把握を行った。
- (2) 産業廃棄物に関しては、多量排出事業者及び処理業者を対象として、排出・処理状況調査を行った。

2 本調査で対象とした廃棄物

本調査で対象とした廃棄物は図1のとおりである。なお、平成23年3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震により生じた災害廃棄物は本調査の対象には含まれない。

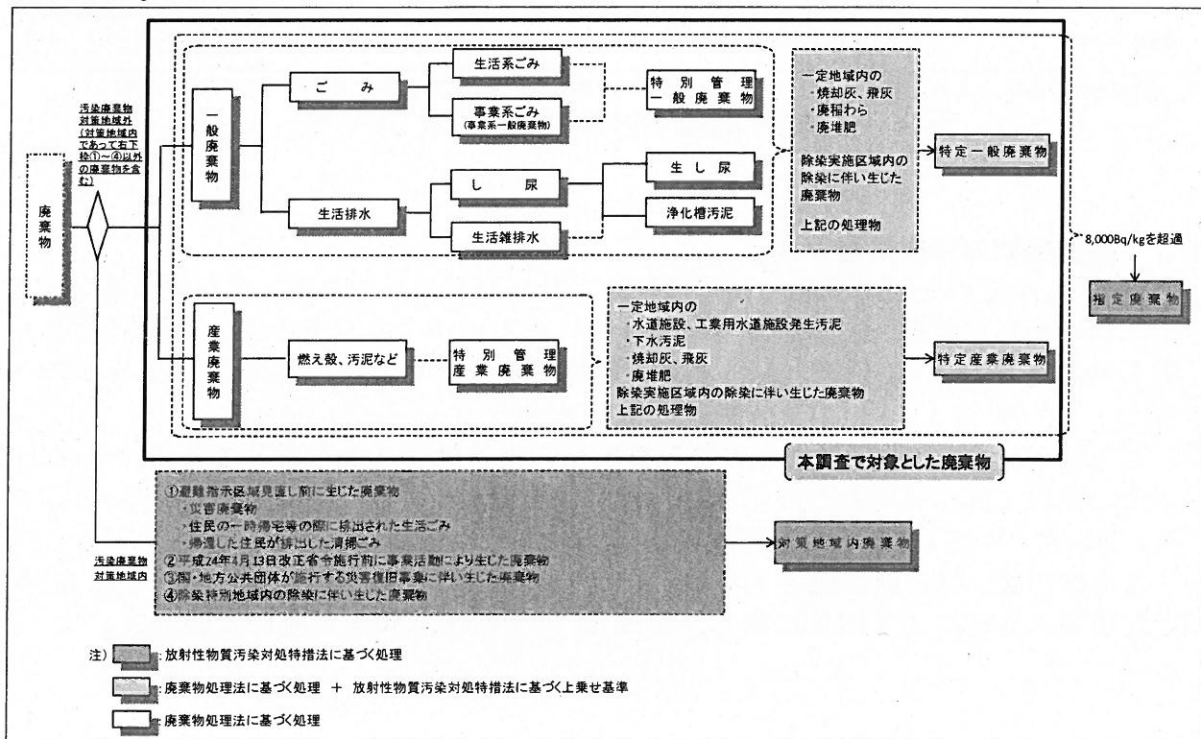


図1 本調査で対象とした廃棄物

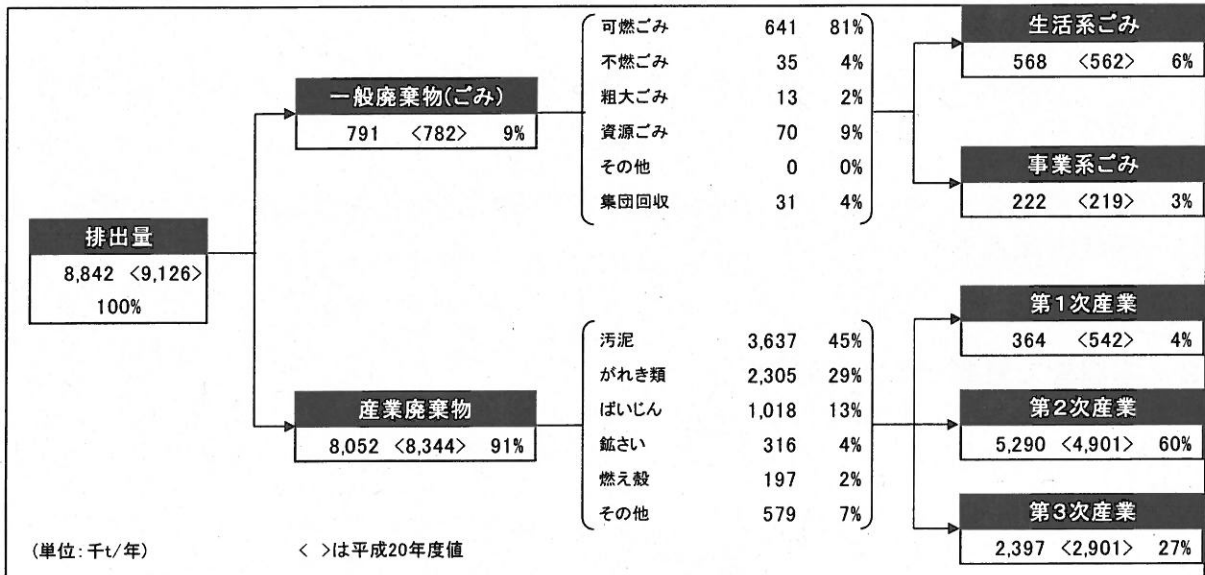
3 本県の廃棄物排出量の概略

平成 24 年度の本県の廃棄物の排出量は、図 2 のとおりである。

一般廃棄物の排出量は 791 千トンで、その内訳は、生活系ごみが 568 千トン、事業系ごみが 222 千トンとなっている。

産業廃棄物の排出量は 8,052 千トンで、種類別では汚泥の排出量が最も多くなっている。また、産業別では第 2 次産業からはがれき類、第 3 次産業からはばいじんの排出量がそれぞれ多くなっている。

平成 24 年度と基準年度である平成 20 年度の排出量を比較すると、全体では平成 20 年度より 3.1% 減少しており、一般廃棄物は 1.2% 増加、産業廃棄物は 3.5% 減少している。



注：端数処理の関係により、総数と個々の数値の合計が一致しない場合がある。以下の図表において同じ。

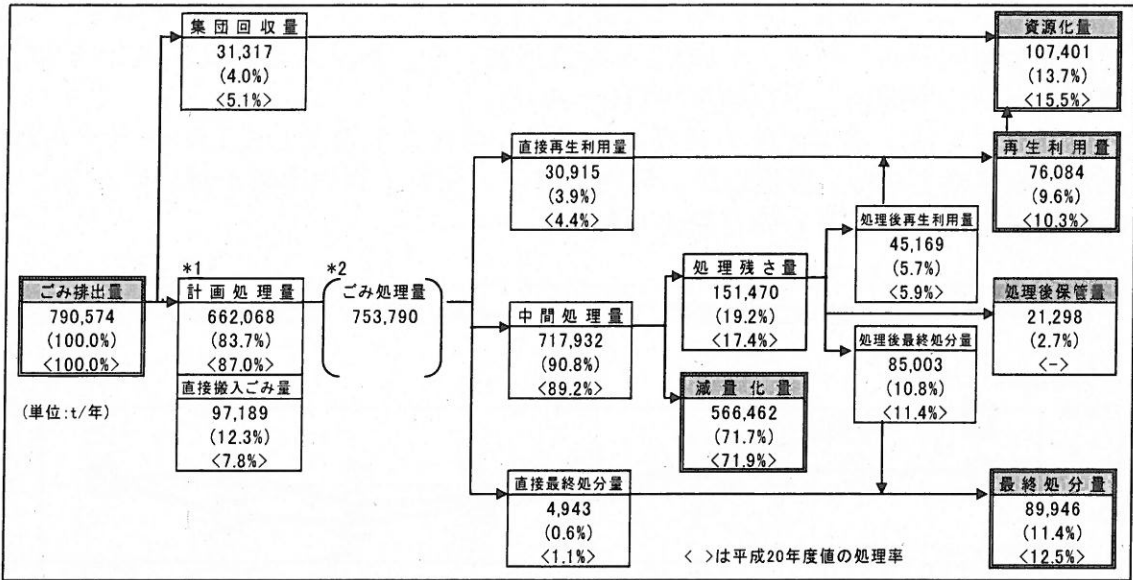
図 2 福島県の廃棄物の排出量 (平成 24 年度)

4 一般廃棄物の排出処理状況

平成 24 年度の一般廃棄物の処理状況は、図 3 のとおりである。ごみ排出量 790.6 千トンに対し、焼却、破碎等の中間処理されたものが 717.9 千トン、再生業者等へ搬入されたものが 30.9 千トン、直接最終処分されたものが 4.9 千トンとなっている。

ごみ排出量、1 人 1 日当たりのごみ排出量の推移は図 4 のとおりである。平成 24 年度の県民 1 人 1 日当たりのごみ排出量 (排出原単位) は 1,094 グラムとなっている。(参考：平成 24 年度の全国値 963 グラム)

ごみ排出量、排出原単位とも平成 22 年度までは減少傾向であったが、平成 23 年度に震災の影響により増加に転じ、平成 24 年度も増加傾向が続いている。



注：※1 計画処理量、直接搬入ごみ量は平成 24 年度に収集された量、※2 ごみ処理量は平成 24 年度に施設で処理された量であり両者の値は一致しない。

図 3 一般廃棄物の処理フロー

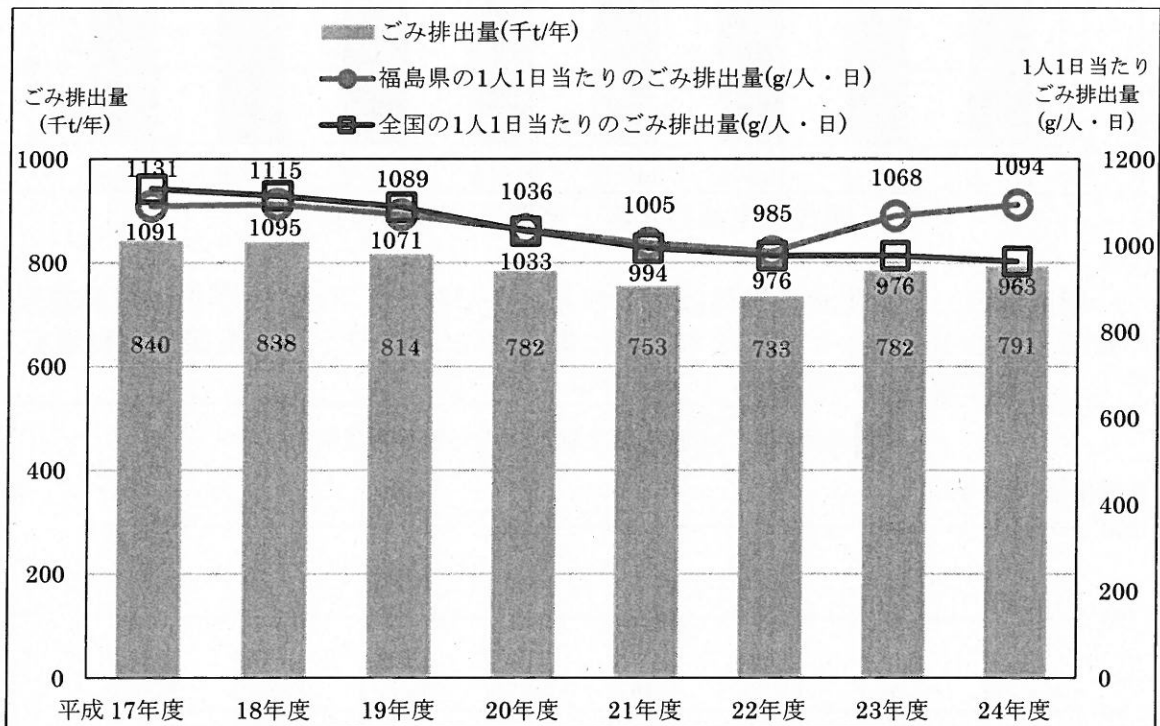


図 4 ごみ排出量、1 人 1 日当たりのごみ排出量の推移

生活系ごみと事業系ごみの推移は図5のとおりである。どちらも平成22年度までは減少傾向であったが、平成23年度は増加した。生活系ごみは平成24年度には減少したが、事業系ごみは増加が続いている。

生活系ごみは、震災直後の家庭内の片付け等により増加したものと考えられる。また、事業系ごみは、震災以降、県内で復旧・復興や除染作業が続いていることに伴い増加が続いているものと考えられる。

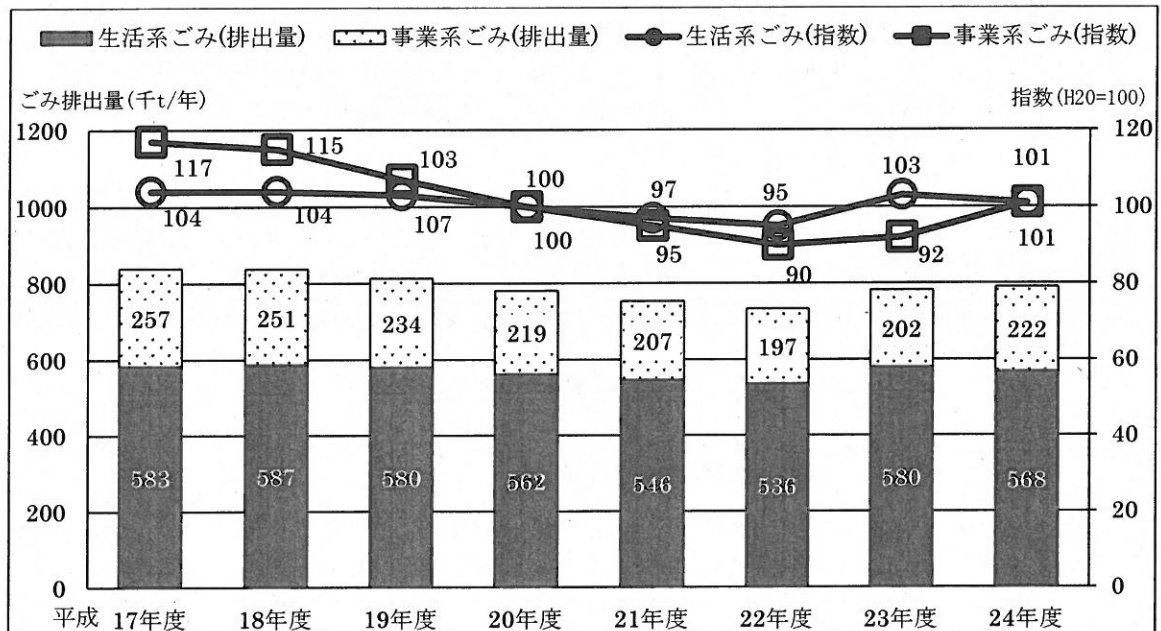


図5 生活系ごみと事業系ごみの推移

一般廃棄物の資源化量の推移は図6のとおりである。平成24年度の一般廃棄物の資源化量は107千トンで、その内訳は集団回収が31千トン、直接再生利用が31千トン、処理後再生利用が45千トンとなっている。

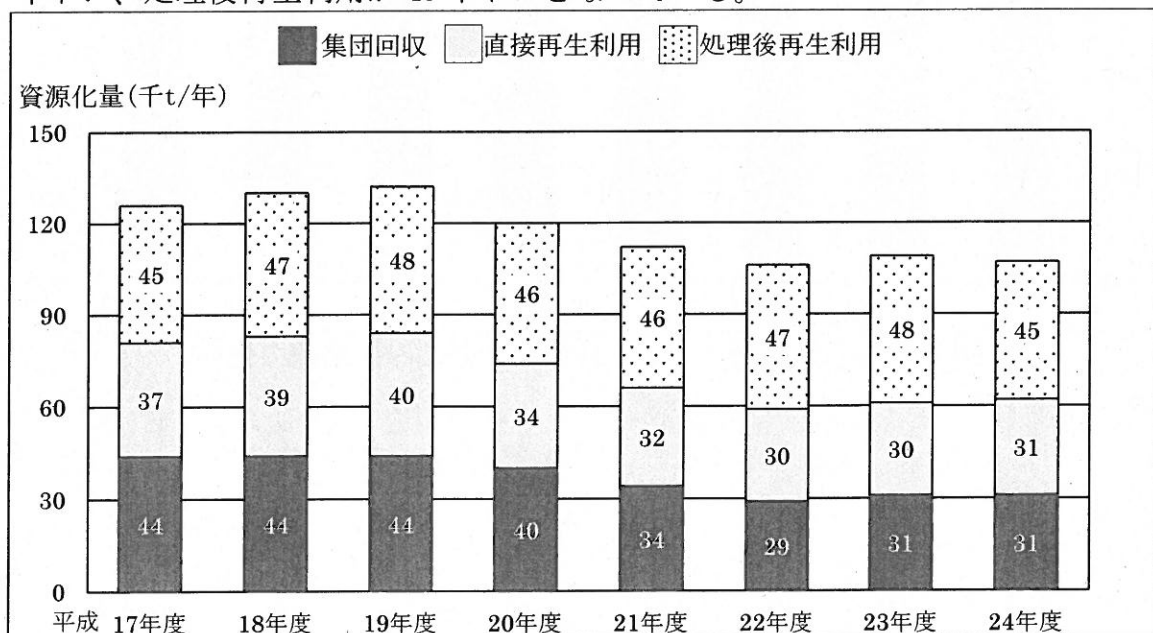


図6 一般廃棄物の資源化量の推移

リサイクル率（ごみ排出量に占める資源化量の割合）の推移は表1のとおりである。リサイクル率は平成19年度をピークに、以降減少傾向が続いており、平成24年度においては目標値の6割程度にとどまっている。

減少の要因としては、町内会等による集団回収の減少や、リサイクル可能物が可燃ごみとして排出されていることなどが考えられる。

表1 一般廃棄物のリサイクル率の推移

(単位：%)

年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
福島県	15.1	15.5	16.3	15.5	14.9	14.2	14.1	13.7
(参考)全国	19.0	19.6	20.3	20.3	20.5	20.8	20.6	20.4

一般廃棄物の最終処分量の推移は図7のとおりであり、平成24年度の最終処分量は90千トンとなっている。

最終処分量は平成22年度までは減少傾向であったが、平成23年度は震災の影響により増加した。平成24年度には再び減少し、平成22年度の値を下回った。

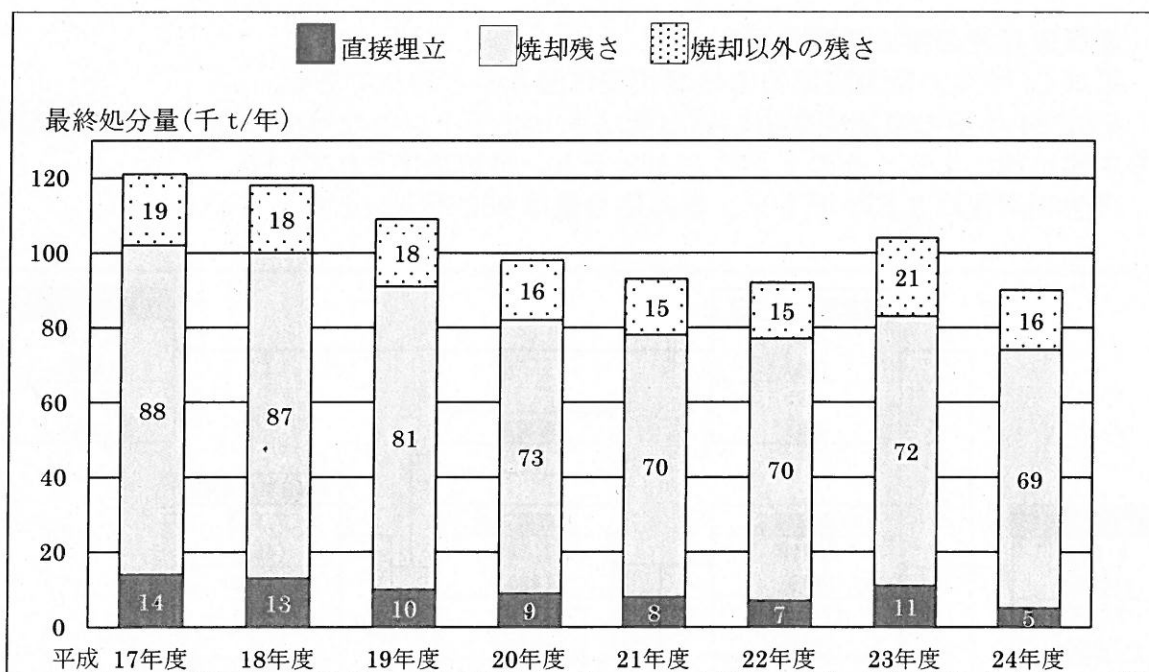


図7 一般廃棄物の最終処分量の推移

5 福島県廃棄物処理計画の進捗状況（一般廃棄物）

福島県廃棄物処理計画（平成 23 年 3 月）では、一般廃棄物について「1人1日当たりのごみ排出量」「リサイクル率」「1日当たりの最終処分量」の3つについて目標値を設定している。

この目標値に対する実績値は表2のとおりである。平成 24 年度の実績値を見ると、いずれの指標においても目標値を達成することは難しい状況にある。

表2 福島県廃棄物処理計画の進行状況（一般廃棄物）

年度	実績					現行計画目標	
	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	26年度	27年度
1人1日当たりのごみ排出量 (g/人・日)	1,036	1,005	985	1,068	1,094	926	915
リサイクル率 (%)	15.5	14.9	14.2	14.1	13.7	24.5	26.0
1日当たりの最終処分量 (t/日)	268	255	251	285	246	200	200

6 産業廃棄物の排出処理状況

平成 24 年度の産業廃棄物の処理状況は図8のとおりである。

平成 24 年度の産業廃棄物の排出量は 8,052 千トンとなっており、脱水、焼却等の中間処理により、そのうちの 3,369 千トンが減量化されている。

再生利用量は 3,673 千トン、最終処分量は 962 千トンとなっている。

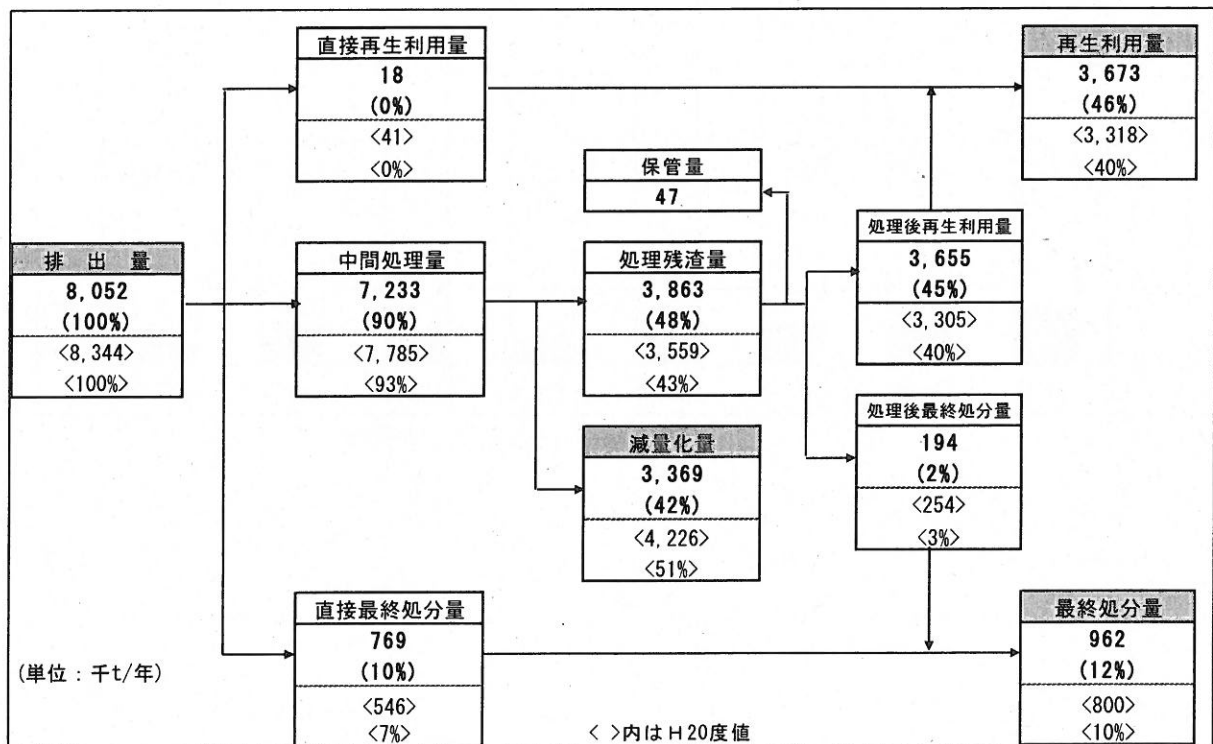


図8 産業廃棄物の処理フロー

産業廃棄物の排出量、再生利用量、最終処分量について、産業廃棄物の種類及び業種の内訳は図9～11のとおりである。

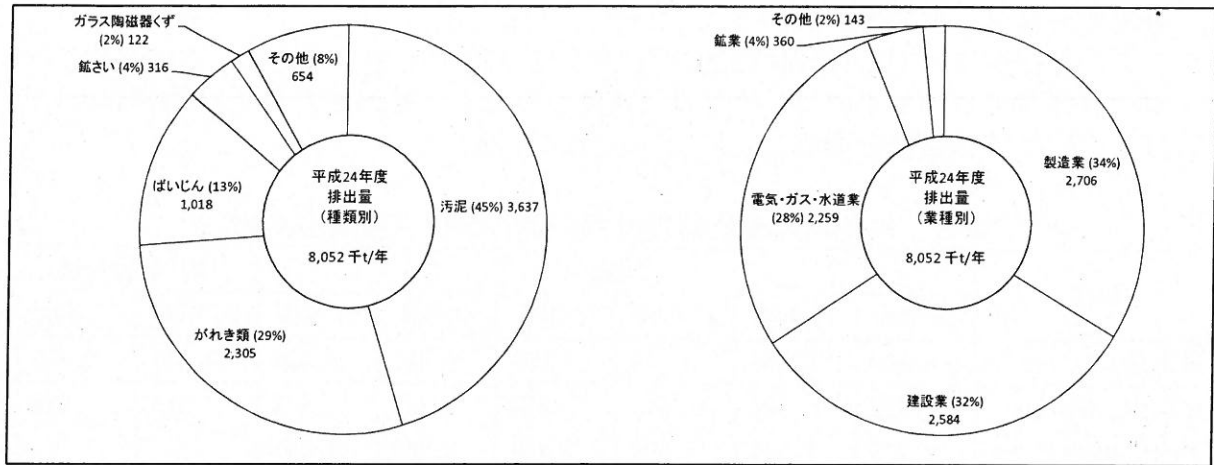


図9 種類別、業種別の産業廃棄物排出量

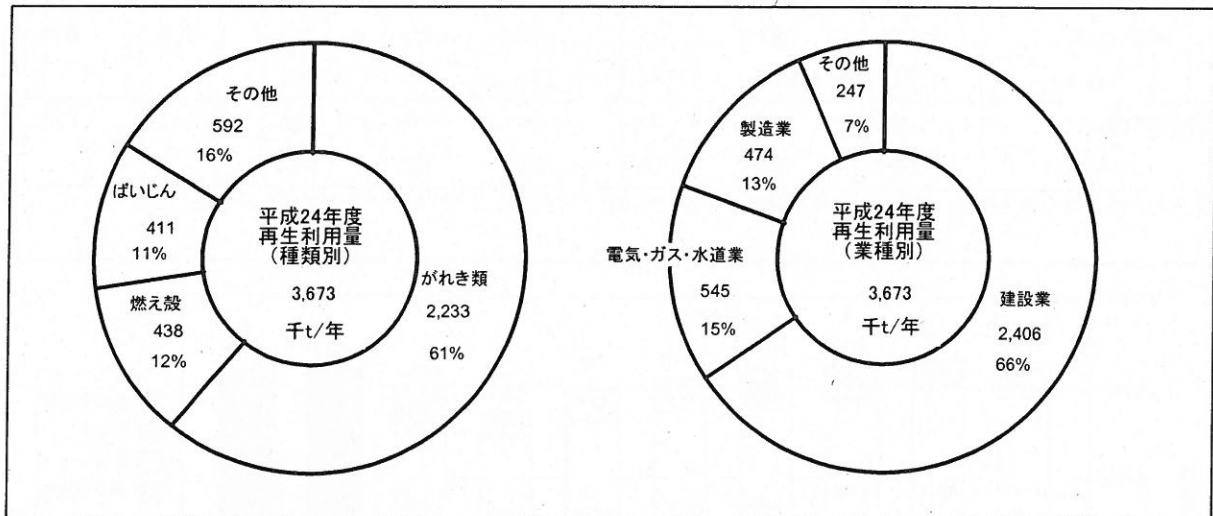


図10 種類別、業種別の産業廃棄物再生利用量

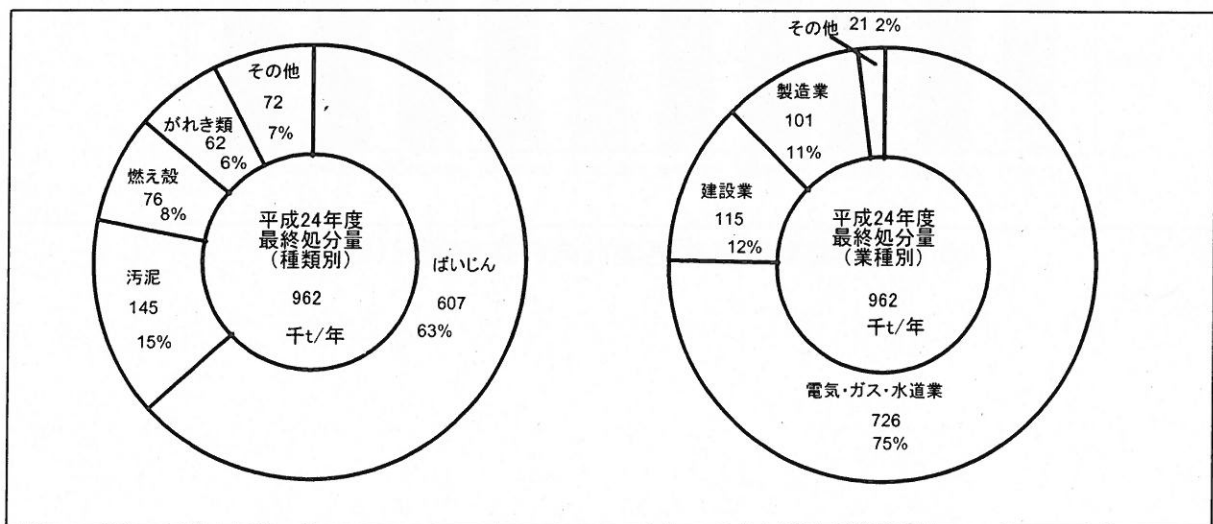


図11 種類別、業種別の産業廃棄物最終処分量

7 福島県廃棄物処理計画の進捗状況（産業廃棄物）

福島県廃棄物処理計画(平成 23 年 3 月)では、産業廃棄物について平成 20 年度を基準として平成 26 年度及び平成 27 年度における排出量、再生利用率、減量化率、最終処分量率に目標値が設定されている。

この目標値に対する実績値は表 3 及び図 12～13 のとおりである。この平成 27 年度の目標値に対する平成 24 年度の実績値をみると、排出量と再生利用率以外の項目については目標値を達成していない状況にある。

表 3 福島県廃棄物処理計画の進行状況（産業廃棄物）

年度	実績						現行計画目標	
	19 年度	20 年度	21 年度	22 年度	23 年度	24 年度	26 年度	27 年度
排出量 (千 t/年)	8,469	8,344	8,218	7,994	7,454	8,052	8,311	8,305
再生利用・減量化率	92%	90%	91%	91%	92%	87%	91%	92%
再生利用・減量化量(千 t/年)	7,773	7,544	7,499	7,268	6,860	7,042		
再生利用率	42%	40%	41%	39%	46%	46%	39%	39%
再生利用量(千 t/年)	3,555	3,318	3,344	3,155	3,428	3,673		
減量化率	50%	51%	51%	51%	46%	42%	52%	53%
減量化量(千 t/年)	4,218	4,226	4,165	4,133	3,432	3,369		
最終処分量率	8%	10%	9%	9%	7%	12%	8%	8%
最終処分量(千 t/年)	696	800	718	726	523	962		

※現行計画目標の再生利用、減量化、最終処分の各項目は排出量の変動に左右されない「処理率」を目標値としている。

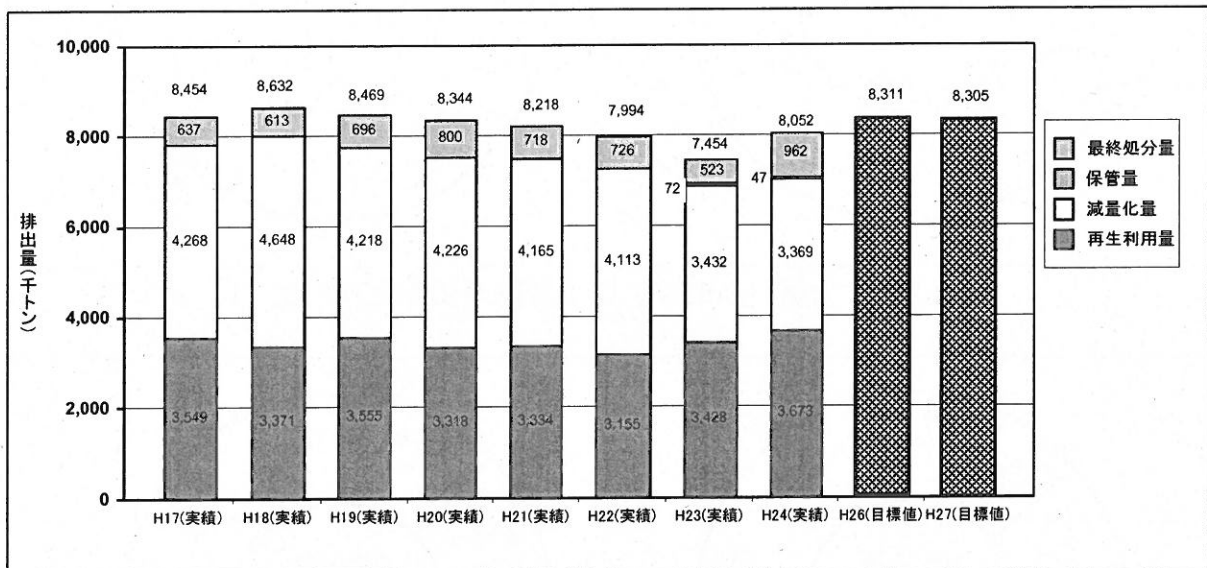


図 12 福島県廃棄物処理計画の進捗状況(処理量)

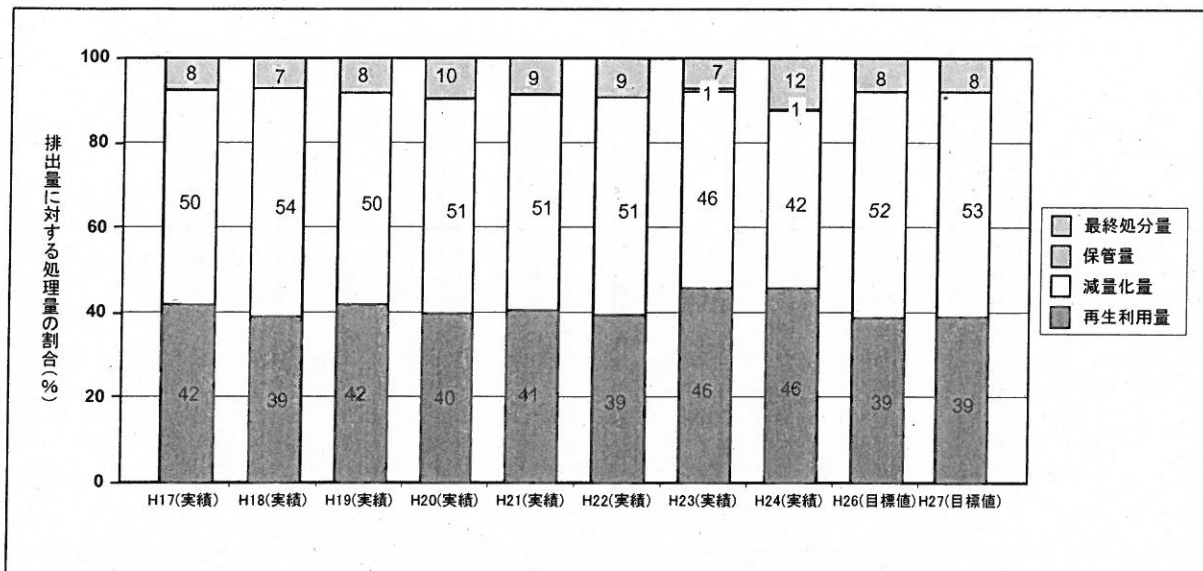


図 13 福島県廃棄物処理計画の進捗状況(処理率)

8 産業廃棄物排出処理状況における東日本大震災の影響

平成 23 年 3 月に発生した東日本大震災の影響により、県内の産業廃棄物の排出状況についても大きな変化が見られた。

主な業種及び種類ごとにみた産業廃棄物の排出量の推移については、図 14～15 のとおりである。

東日本大震災の前後における全体の排出量の推移についてみると、平成 22 年度から平成 23 年度において 550 千トン減少し、平成 23 年度から平成 24 年度において 598 千トン増加している。

産業廃棄物の種類についてみると、汚泥は減少傾向にあるが、がれき類は増加傾向にあり、特に平成 23 年度には前年度から約 800 千トンが増加している。

ばいじんは平成 23 年度に前年度から約 900 千トンが減少し、平成 24 年度には前年度から約 600 千トンが増加している。

がれき類については、震災以降、民間、公共施設等の復旧、復興関係の工事の進捗により、排出量が増加したと考えられる。

ばいじんについては、排出量の大部分が火力発電所から由来するものと考えられ、平成 23 年度では震災による被害を受け、火力発電所が停止したことから排出量が減少し、平成 24 年度では火力発電所の稼働が順次再開されたことから排出量が増加したと考えられる。そのため、ばいじんの排出量は火力発電所の稼働状況に大きな影響を受けることが推察される。

また、原子力発電所の事故により放出された放射性物質によって汚染された産業廃棄物について、放射能濃度が 8,000Bq/kg 以下のもの※は通常の産業廃棄物と同様に処理が可能とされているが、最終処分先の確保が困難なものは一時保管されている状況にある。

※放射性物質汚染対処特別措置法では、廃棄物のうち放射性物質(Cs134, Cs137)の放射能濃度が 8,000Bq/kg を超えるものについては、国が責任を持って処分することとされている。

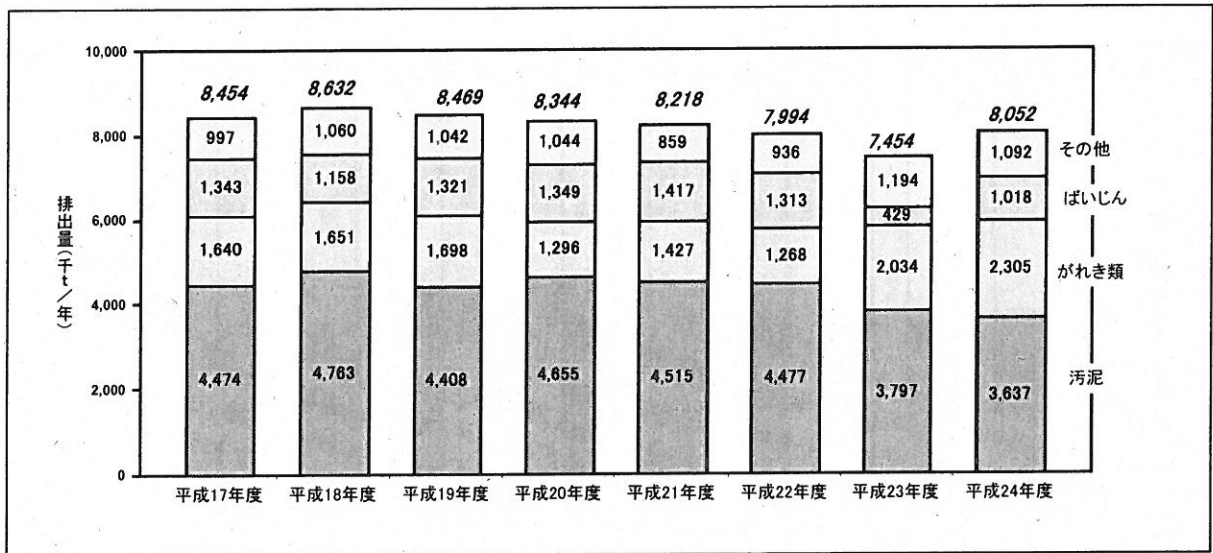


図 14 種類ごとの産業廃棄物排出量の推移

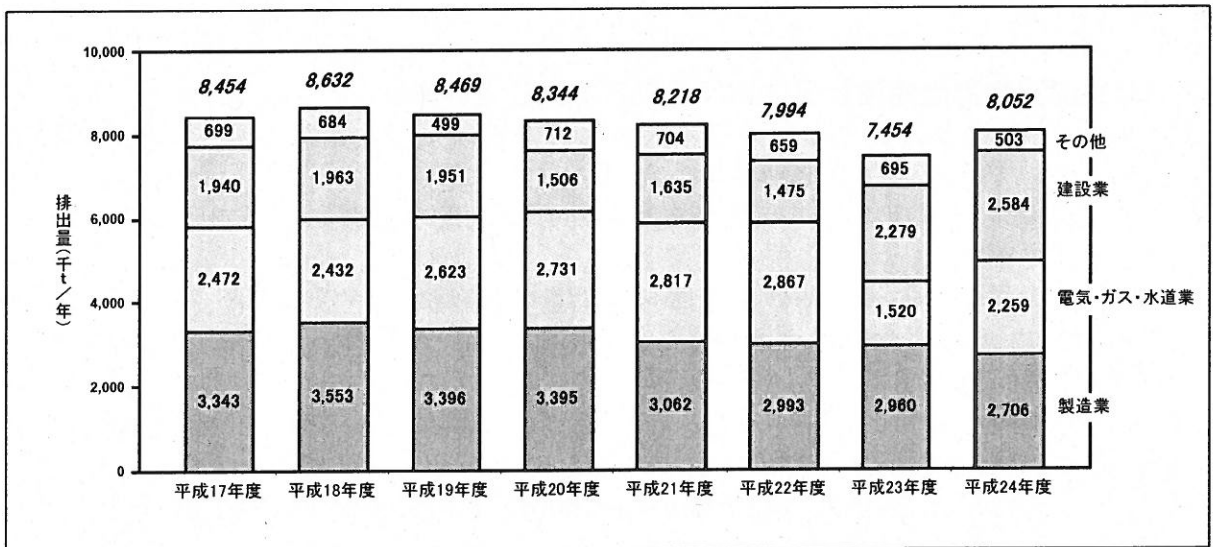


図 15 業種ごとの産業廃棄物排出量の推移

9 廃棄物の不法投棄の現状

県内及び全国における不法投棄の状況は、表4のとおりである。

県内の不法投棄件数及び投棄量については、長期的にみると概ね減少傾向にある。

表 4 産業廃棄物不法投棄件数及び投棄量

(投棄量：t)

年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
件数(県内)	4	9	2	3	0
投棄量(県内)	44,018	3,957	812	1,398	0
件数(全国)	308	279	216	192	87
投棄量(全国)	202,000	67,000	62,000	53,000	44,000

※投棄量は産業廃棄物が10t以上、特別管理産業廃棄物は全てについて発見数及び量を表す。

(出典：環境省H25.12.26発表「産業廃棄物の不法投棄等の状況について」)